

NPO 法人頸城野郷土資料室  
平成 27 年度学術研究概要報告

研究者氏名 石川 伊織

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 頸城の近代化における政治と鉄道</p>	<p>明治の自由民権期に頸城自由党に結集した頸城地域の民権活動家にみる「近代化」の思想を研究し、それが目指す「近代」を政治的自由と経済的自由の観点から総括した。</p>	<p>くびき野カレッジ第9期(「信越線と自由民権」 2015年1月24日・於：上越市高田、町家交流館・高田小町)で口頭発表を行った。</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】 (1)2014年度科学研究費基盤研究(B)一般研究「ヘーゲル美学講義に結実した芸術体験の実証的研究」(2014年4月～2018年3月)</p>	<p>(1)2015年は科研費基盤研究(B)の2年目にあたり、前年度に引き続き、ヘーゲルが美学講義をはじめとする随所で論述している絵画論関連のテキストを渉猟してこれを検討するとともに、19世紀初頭の美学思想と美術館の歴史とを文献で調査した。2016年2月に予定しているオランダとミュンヘンへの現地調査の準備をした。</p>	<p>(1:a)ヘーゲル『1820/21年の美学講義』テキスト 185頁 [§190]以下 [B.] Der besondere Theil. の特徴(2)「絵画・音楽・文学」平成27年2月25日・26日 科研費研究会『ヘーゲル美学講義に結実した芸術体験の実証的研究』第三回研究会(法政大学市ヶ谷校舎) (1:b-1)ヘーゲル『1820/21年の美学講義』翻訳稿の用語の統一について (1:b-2)Annik Pietsch, “Material, Technik, Ästhetik und Wissenschaft der Farbe 1750 – 1850, Eine produktionsästhetische Studie zur &gt;Blüte&lt; und zum &gt;Verfall&lt; der Malerei in Deutschland am</p>

<p>(2)ヘーゲル『精神現象学』「宗教」章の研究</p>	<p>(2)日本ヘーゲル学会におけるワークショップに応募して、『精神現象学』「宗教」章の討論を行った。今回はその3回目で、「宗教」章の締めくくりとして啓示宗教を扱った。</p>	<p><i>Beispiel Berlin</i>”, Deutscher Kunstverlag 2014, Berlin, München.の紹介 (b-1 および b-2 は平成 27 年 5 月 23・24 日に科研費研究会『ヘーゲル美学講義に結実した芸術体験の実証的研究』第四回研究会 (法政大学市ヶ谷校舎)での報告</p> <p>(1:c)ヘーゲル『1820/21 年の美学講義』翻訳の完成稿について 平成 27 年 9 月 17・18 日 科研費研究会『ヘーゲル美学講義に結実した芸術体験の実証的研究』第五回研究会 (新潟県立大学)での報告</p> <p>(2)宗教の人間化 神と <b>Gemeinde</b> をめぐる諸問題——『精神現象学』宗教章 C「啓示宗教」論における神と共同体 平成 27 年 6 月 7 日 日本ヘーゲル学会第 21 回大会ワークショップ (高野山大学)。討論者:飯泉佑介 (東京大学大学院)・矢島義英 (同志社大学大学院)、司会・コーディネーター:石川伊織</p>
-------------------------------	--	---

NPO 法人頸城野郷土資料室  
平成 27 年度学術研究概要報告

研究者氏名 石塚 正英

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】 くびき野文化関連	金谷山幕末明治史跡フィールド調査（5月10日） 上越市板倉区方面(普泉寺 大日如来像、中村十作記念館、 飴地蔵尊、ゑしんの里) フィールド調査（5月31日） 上越市近郊の瞽女関連施設・地域フィールド調査（6月14日） 妙高市方面（医薬神社、水神社、新井別院の芭蕉句碑ほか） フィールド調査（10月11日） くびき野ヘリテージ第10号認定：妙高はねうまライン高 田駅ホーム 1885年製造のイギリス製レール支柱（10月 23日）	第12回くびきのフィールド見学会 第13回くびきのフィールド見学会 くびき野ヘリテージ 第10号 認定について 以上：『くびきのアーカイブ』第41号 (2015.12.01)
【くびき文化に関係しない研究】 民俗学関連	妖怪と人とのインターフェイス	〔講演〕東洋大学井上円了研究センター新設記念シンポジウム井上円了の妖怪学と現代（3月21日） 〔講演記録〕「妖怪と人とのインターフェイス」 （『井上円了センター年報』第24巻、平成27年、所収）

歴史民俗関連	母方オジ権と歓待の儀礼ーハイダ人社会とイロクォイ人社会	〔研究ノート〕「母方オジ権と歓待の儀礼ーハイダ人社会とイロクォイ人社会」(『世界史研究論叢』第5号、平成27年、所収)
--------	-----------------------------	---

NPO 法人頸城野郷土資料室  
平成 27 年度学術研究概要報告

研究者氏名 唐澤 太輔

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 くびき野文文化関連</p>	<p>「裏日本」と渤海および舞楽の研究</p>	<p>〔講義〕「裏日本」文化論⑥―渤海と舞楽―、第 10 期頸城野郷土資料室「くびき野カレッジ 天地びと」講義、第 10 講(2015 年 8 月 22 日)</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】 ①民俗学関連  ②文化人類学関連</p>	<p>①「裏日本」文化論(連載)  ②南方熊楠に関する研究</p>	<p>①〔論文(連載)] ヌース出版 web 雑誌『ロゴス ドン』、月 1 回連載(4 月～継続中) <a href="http://www.nu-su.com/seimei.html">http://www.nu-su.com/seimei.html</a> ②-1〔講演〕「南方熊楠の立っていた場所―く 夢&gt;という「通路(パサージュ)」―」、第 47 回 国際日本文化研究センター国際研究集会「夢と 表象」(2015 年 3 月 3 日) ②-2〔論文〕「南方熊楠と「テレパシー」とい う言葉に関する考察」、東洋大学 Tieph『エコ フィロソフィ』研究(9)pp.61-74(2015 年 3 月 24 日) ②-3〔講演〕「南方マンダラはどう読まれてき たか―マンダラ誕生から今後の課題まで―」、</p>

<p>③宗教学関連</p>	<p>③Religious Diversity に関する研究</p>	<p>南方熊楠顕彰会、第 18 回特別企画展「南方熊楠と真言密教」(2015 年 4 月 12 日)</p> <p>②-4 [書籍]『南方熊楠—日本人の可能性の極限—』、中公新書(2015 年 4 月 25 日)</p> <p>②-5 [講演]「南方熊楠—実証研究を越えて—」、早稲田大学地域文化研究所(2015 年 9 月 5 日)</p> <p>②-6 [書評]「圧倒的共感の背後にあるもの」(『南方熊楠の謎』に対する書評)、KUMAGUSU WORKS46, pp.69-71(2015 年 10 月 1 日)</p> <p>②-7 [講演]「熊楠 夢について」、アートホテル kumagusuku トークイベント(2015 年 12 月 18 日)</p> <p>③ [コメンテーター] <i>Diversity in Asian Religious and Japanese Buddhism</i>、龍谷大学、2015 年 10 月 22 日</p>
---------------	------------------------------------	---

NPO 法人頸城野郷土資料室  
平成 27 年度学術研究概要報告

研究者氏名 黒木朋興

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】	特になし	特になし
【くびき文化に関係しない研究】 民俗学関連	埼玉県秩父地方の札所と石仏に関するフィールドワーク フランス国ブルターニュ地方のフェスティバルに関する フィールドワーク	特になし

NPO 法人頸城野郷土資料室  
平成 27 年度学術研究概要報告

研究者氏名 古賀 治幸

研 究 課 題	研 究 進 捗 状 況	発 表 状 況
<p>【くびき文化に関する研究】 くびきの文化関連 ・直江津プロジェクト関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直江津地区資料調査：『直江津往還』関連で越後ときめき鉄道本社、直江津小学校訪問（3月6日）</li> <li>・明治天皇巡幸と電信網形成の調査で郵便博物館にて資料収集（6月20日）</li> <li>・高田－直江津間資料調査：自転車にて直江津から今町道（上越大通り）－藤巻追分道標－陀羅尼口－本町7丁目道標－稲田橋－北国街道奥州道（富岡線）－春日新田－左内道標－直江津・高田図書館にて資料収集（9月11日）</li> <li>・佐渡御金荷輸送の調査で都内にて資料収集（10月）</li> <li>・上越地域街道調査：車にて直江津から旧8号線（浜線）－米山－柏崎－北陸道－富岡IC－旧18号線－高田－新井－関川関所－野尻湖－高田伊勢町口－加賀街道－谷浜－桑取－山越え－高田大貫（11月22－23日）</li> </ul>	<p>[報告] くびき野カレッジ－天地びと－第8講 「直江津往還補説1－街道から近代の国道へ：今町道と明治天皇北陸巡幸－」（7月25日）</p> <p>[報告] くびき野カレッジ－天地びと－第5講 「直江津往還補説2－高田直江津往来：奥州道の地域と御金荷の輸送－」（11月14日）</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】 歴史学関連 ・ロシア、ソ連史関係</p>	<p>一橋大学経済研究所にて第一次五カ年計画の資料調査</p>	



NPO 法人頸城野郷土資料室  
平成 27 年度学術研究概要報告

研究者氏名 真野俊和

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】 糸魚川木地屋の移住史に関する研究  渋沢敬三フィルム「谷浜」の検討	近世期に飛騨地方より糸魚川に移住してきた木地屋集団の頸城地方における移住の跡を整理した。  渋沢敬三が昭和 10 年に桑取谷を訪れた際に自ら撮影した 2 本の 16 ミリフィルムのうち、「谷浜」と題された映画の撮影地に関して錯誤があると考えられるため、その点に関する現地踏査を踏まえた検討を行った。	くびき野カレッジ第 9 期において講義を行った。(2015 年 1 月 10 日)  くびき野カレッジ第 10 期において講義を行った(2015 年 7 月 25 日)。
【くびき文化に関係しない研究】 「人文学」という学問範疇の特性に関する研究	① この数年にわたり、特定の学術論文・著作を具体的な対象として、そこに現れた思考を方法・形式状の特徴という観点から分析してきた。それらの数点は、上越教育大学上越社会科教育学会編『上越社会研究』に掲載された。  ② 「『私』と何か」という問題を、民俗学を越境する観点から考察し、執筆した(平成 26 年度に刊行)。	左記を含む成果をまとめ、単著書『「人文学」という思考法 〈思考〉を深く読み込むために』(2015 年 11 月 30 日 社会評論社)として刊行した。

NPO 法人頸城野郷土資料室  
平成 27 年度学術研究概要報告

研究者氏名 瀧田 寧 (平成 27 年 12 月 22 日現在)

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 直江津プロジェクト</p>	<p>『日本海沿いの町 直江津往還』増補改訂版に向けたフィールド調査 (3月5日～6日) ：小川未明『赤いろうそくと人魚』にゆかりの虫生海岸、近代直江津に関する聞き取り調査 (荒川町の個人宅、浜町の旅館有楽)、ジェームス・ダンの母校の直江津小学校、小川未明文学館、高田世界館</p> <p>&lt;調査内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『赤いろうそくと人魚』のいわさきちひろによる挿絵は、虫生海岸の前崎館で描かれているので、今回その場所を訪れ写真撮影を行った。増補版ではぜひ活用したい。</li> <li>・荒川町では、住吉神社とは異なる琴平神社の意義などについて教えていただいた。有楽では、高度成長期の直江津の裏話などを聞かせていただいた。</li> <li>・直江津小学校では、ジェームス・ダン選定のベヒシュタインピアノの写真撮影をさせていただいた。</li> <li>・高田世界館は、齊藤ジョニーの地元ライブで使用された会場として本書では言及したが、実はそれだけでなく、小川未明作品や山椒大夫が近年上演されている場所でもあることを今回の調査で知った。また、世界館は映画『シグナル 月曜日のルカ』のロケに使用された施設であるが、この映画では直江津もロケに使われている。こうした事情を踏まえ、増補改訂版では、高田世界館の歴史と現状について、少し詳しく説明しておきたいと考えるに至った。</li> </ul>	<p>〔頸城野郷土資料室「会員通信」(サイボウズ)〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) (5月31日) ジョン・ダン (エドウィン・ダンの三男) の記事のご案内</li> <li>2) (8月31日) 新潟県にゆかりの映画</li> <li>3) (12月1日) 取材協力：エドウィン・ダンと直江津／伊藤一隆と直江津 〔メディアへの取材協力〕</li> </ol> <p>1) JR 北海道車内誌『THE JR Hokkaido』第 334 号 (12 月 1 日発行)、5-10 頁 エドウィン・ダンの「日本愛」 内容：ダン一家の直江津時代に関する情報・資料提供</p> <p>2) NHK ファミリーヒストリー 中川翔子～近代化に賭けた先祖 お台場建設とクラークの教え (12 月 4 日放送) 内容：クラークの愛弟子で中川翔子の高祖父である伊藤一隆の直江津時代についての情報提供及び現地案内</p>

<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <p>哲学関連</p>	<p>ポパーとパスカル</p> <p>—人間の無知の強調をめぐって—</p>	<p>[学会発表]</p> <p>日本ポパー哲学研究会・第26回年次研究大会、 於日本大学文理学部 平成27年8月1日 (報告要旨)</p> <p>「ポパーとパスカル —人間の無知の強調をめぐって—」</p> <p>『批判的合理主義研究』(日本ポパー哲学研究会事務局機関紙編集部編) 通巻13号、 11頁、平成27年7月</p>
------------------------------------	--	--

NPO 法人頸城野郷土資料室  
平成 27 年度学術研究概要報告

研究者氏名 中島 浩貴

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】	なし	なし
【くびき文化に関係しない研究】 ドイツ第二帝政期の軍と軍国主義をめぐる言説研究  東松山および坂戸地域の文化交流を伴うまちづくり	ドイツ帝国時代（1871－1918）の軍隊と社会に関する言説分析の研究に取り組んでおり、この中で「軍国主義」と呼ばれる状況変化についての分析検討を行った。  北坂戸にぎわいサロンでの読書会を通じて、地域住民と本を通じてのまちづくりを調査中。また、現地 NPO との交流を行うなかで、現状を確認した。	〈講演〉「クラウゼヴィッツ『戦争論』読解—いかにして全体を正確に理解するか」（クラウゼヴィッツ学会、2015年12月16日）・「ドイツ帝国における一般兵役義務とその言説1871～1914」（西洋史学会、5月17日）、「ドイツ帝国における軍事言説と急進化1871-1914」（ドイツ現代史研究会、4月18日）ほか。

NPO 法人頸城野郷土資料室  
平成 27 年度学術研究概要報告

研究者氏名 長谷川 和子

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】 直江津プロジェクト</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・プロジェクト活動協力の依頼(4月 高田) 市議会議員他、高校同級生</li><li>・歴史に関する施設の見学(7月 上越市) ＜坂口記念館、三和米と酒の謎蔵、牧歴史民俗資料館＞</li><li>・カレッジ聴講「直江津今町の遊女とその暮らし」(9月 高田)</li><li>・町歩きツアー 磯田氏に「福永翁」の業績概略説明を受ける(9月 直江津)</li><li>・プロジェクトメンバーと情報交換(12月 東京 上野)<ul style="list-style-type: none"><li>―古賀幹事よりカレッジ発表内容のブリーフィングを受ける</li><li>―瀧田副幹事より、エドウィン・ダン関係の公表された内容についての詳細な説明を受ける</li></ul></li><li>・通年―多くの方に出版本『直江津往還』の紹介、可能な限りコメントをもらう</li></ul>	<p>直江津プロジェクトに関する 上越地方への情報収集についての報告</p>

<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 法律関係 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 日本語論文のチェック</li> <li>② 個人情報保護法制</li> </ul> </li> <li>・ 歴史研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>— 地元横浜の歴史探訪</li> </ul> </li> <li>・ グローバル時代の人材育成(特に英語)</li> </ul>	<p>南京師範大学 趙莉先生の日本語論文「凍結胚の法的性質及び相続の可否について」の校閲</p> <p>マイナンバー制度の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中(区)図書館講演会(10月) 「古写真で巡る昔の三溪園」聴講 と園内の主な建物施設(木造建築、歴史的価値のある石などの見学(ガイド付き))</li> <li>・ 鶴翔閣(日本の伝統的建築で平素は非公開)でのコンサート時建物内部を見学</li> <li>・ 新聞、著書などのチェック、合わせて幕末、明治時代先達がどのように西洋文化を吸収し世界へ出ていったかも参考にする</li> </ul>	<p>『民事責任の法理 円谷峻先生古希記念祝賀記念論文集』(成文堂、2015年)</p> <p>未定</p> <p>2020年の東京オリンピックに向け三溪園集客計画の立案を促した</p> <p>2016年1月発表予定 流通経済大学特別講座 * 詳細未定のため発表後再度追加報告いたします。</p>
--	--	--

NPO 法人頸城野郷土資料室  
平成 27 年度学術研究概要報告

研究者氏名 米田 祐介

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】 〔小川未明研究〕	前著『『赤い蠟燭と人魚』の背景を訪ねて』（『日本海沿いの町 直江津往還』社会評論社、平成 25 年、所収）では、未明の代表作「赤い蠟燭と人魚」の誕生は幼少期の経験にこそあるとみて光をあてた。このような問題意識を引き継ぎ、旧来、研究史においてはあまり言及がなされていないラフカディオハーンの影響を探求している。もとより本研究はそれがくびき文化や地域性とどのような接合をもつのが主眼である。ほか、同作品の映画化・国際的発信を準備しているプラスジャパンの高遠瑛氏と会合をもった（2月21日）	
【くびき文化に関係しない研究】 〔震災とケア〕	福島第一原子力発電所の事故（〈核災〉）により、放射性物質が飛散し日本には「線」がひかれた。しかしこの線は、決して平等にはひかれない。子どもや女性、老人、そして障がい者たちに対して一層苛烈である。本研究は、〈核災〉が〈いのち〉の選別という構えを強化し、いまや〈いのち〉の係留点としての女性身体が、管理の拠点としての暴力に一層さらされることになるという事態を示すものであり、右の著作にまとめた。ほか刊行後、三陸沿岸の被災地（主として宮古市）のフィールド調査（堤防建設の状況）を行った（5月27日）。	〔著書（共著）〕「〈核災〉と〈いのち〉の選別」（金井淑子・竹内聖一編『ケアの始まる場所——哲学・倫理学・社会学・教育学からの 11 章』ナカニシヤ出版、平成 27 年 2 月、所収）

NPO 法人頸城野郷土資料室  
平成 27 年度学術研究概要報告

研究者氏名 山田 彩加

研究課題	研究進捗状況	発表状況
<p>【くびき文化に関する研究】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・上越地方とキリスト教との関係</li><li>・児雷也伝説を利用した表現活動 および地域おこしについて</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・糸魚川出身の基督者・松山高吉について</li><li>・児雷也舞台化について</li></ul>	<p>くびきのカレッジ天地びと 第 10 期カリキュラム 平成 27 年 5 月 23 日 第 4 講 にて口頭発表 「漢訳聖書と日本のことば 糸魚川出身の基督者・松山高吉」</p>
<p>【くびき文化に関係しない研究】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・白拍子 遊女（しらびょうし ゆめ） 名義での表現活動</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・外国語の詩の和訳と朗読</li><li>・歌唱</li><li>・脚本の提供</li></ul>	<p>出演</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・アートコンプレックスの会・主催 平成 27 年 4 月 12 日「さくらいぶ」 平成 27 年 10 月 25 日「酒祭り うた祭り」</li></ul> <p>出展</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・デザインマーケット上越実行委員会・主催 「デザインマーケット上越」平成 27 年 10 月 13 日</li></ul> <p>作品提供</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・脚本『ひとでなしのこひ』 劇団上越ガテンボーイズ実験劇場 Vol.26「Re : START」にて上演 平成 27 年 5 月 15 日～17 日</li></ul>



NPO 法人頸城野郷土資料室  
平成 27 年度学術研究概要報告

研究者氏名 山本 希一

研究課題	研究進捗状況	発表状況
【くびき文化に関する研究】		
【くびき文化に関係しない研究】 歴史・地理系 越後新田一族の定着と展開  思想系 日本思想の中の倫理	文献・地図調査    文献探索	授業教材として使用中